

報道機関各位

企画政策課企画係

タイトル ル・ポン国際音楽祭2022 赤穂・姫路 について

下記のとおり報告いたしますのでよろしくお願いいたします。

行事・事業名	ル・ポン国際音楽祭2022 赤穂・姫路
日時	令和4年10月2日（日）から令和4年10月9日（日）
場所・住所	赤穂化成ハーモニーホール、姫路城二の丸特設会場、 書写山圓教寺三の堂特設会場、アクリエひめじ
趣旨・目的（PRしたいこと）	ル・ポン国際音楽祭2022 赤穂・姫路について、上記の日程で開催するのでお知らせします。
問い合わせ先	部課係名：市長公室企画政策課 担当者名：玉木、庵原 電話：0791-43-6867 内線（2458、2453） FAX：0791-43-6822

○添付資料 有 無 ○ホームページへの掲載 有 無 ○議会報告 有 無

令和4年5月30日

報道各位

赤穂国際音楽祭実行委員会
姫路国際音楽祭実行委員会

ル・ポン国際音楽祭2022 赤穂・姫路の開催について

世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の第一コンサートマスターで、世界的ヴァイオリニストである榎本大進氏自らが音楽監督を務めるル・ポン国際音楽祭2022 赤穂・姫路を下記の日程で開催します。

この音楽祭は、榎本大進氏が、氏と親交のある世界の実力派アーティストを招いて室内楽の名曲の数々をお届けするもので、両市をはじめ、地域の活性化に寄与するために開催するものです。

2012年から、姫路市と共同で開催しています。

【日程】

2022. 10. 2 (日)		▶▶▶	10. 9 (日)	
10/2 (日)	開演 17:00		赤穂化成ハーモニーホール (大ホール)	
10/3 (月)	開演 18:30		赤穂化成ハーモニーホール (大ホール)	
10/5 (水)	開演 19:00		姫路城二の丸特設会場	
10/6 (木)	開演 19:00		姫路城二の丸特設会場	
10/8 (土)	開演 15:00		書写山圓教寺三の堂特設会場	
10/9 (日)	開演 18:00		アクリエひめじ (大ホール)	

※ 野外会場の公演 (姫路城二の丸・書写山圓教寺三の堂) は、雨天の場合、会場をアクリエひめじ中ホールに変更します。

(裏面へ)

【出演者】

樫本 大進（音楽監督／ヴァイオリン、日本）
ナタリア・ロメイコ（ヴァイオリン、ロシア）
ボリス・ブロフツィン（ヴァイオリン、ロシア）
アミハイ・グロス（ヴィオラ、イスラエル）
ギャレス・ルベ（ヴィオラ、南アフリカ）
クラウディオ・ボルケス（チェロ、ドイツ）
ティモシー・パーク（チェロ、アメリカ）
エマニュエル・パユ（フルート・スイス）
フランソワ・ルルー（オーボエ、フランス）
ポール・メイエ（クラリネット、フランス）
ジルベール・オダン（バスーン、フランス）
セルゲイ・ナカリャコフ（トランペット・フリューゲルホルン、ロシア）
エリック・ル・サージュ（ピアノ、フランス）
アレッシオ・バックス（ピアノ、イタリア）

※ 出演者は5月30日現在の予定です。やむを得ない事情により、変更になる場合があります。

問合せ先 赤穂国際音楽祭事務局（赤穂市市長公室企画政策課内）

Tel 0791-43-6867 Fax 0791-43-6822 Mail kikaku@city.ako.lg.jp

姫路国際音楽祭事務局（姫路市観光スポーツ局観光文化部文化国際課内）

Tel 079-221-2098 Fax 079-221-2419 Mail bunkakokusai@city.himeji.lg.jp

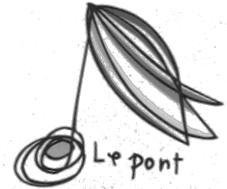
ル・ポン国際音楽祭2022 赤穂・姫路



芸術文化振興基金助成事業

2022. 10. 2～2022. 10. 9

赤穂国際音楽祭 事業計画書
令和4年(2022年)5月30日現在



● 目的

- ① 赤穂においてクラシック音楽を市民が、特に将来を担う子どもたちが気軽に楽しめる環境をつくりだすこと。
- ② 異なる文化圏からの音楽家たちや来訪者と市民との交流の機会を提供すること。
- ③ 豊かな自然環境や歴史・文化に恵まれたまち「赤穂＝AKO」の名前を改めて全国へ、そして世界に向けて発信し、観光振興、定住促進等に寄与すること。

● 経緯

赤穂市に縁がある世界的ヴァイオリン奏者榎本大進氏から、世界の実力派演奏家を「ふるさと赤穂」に招き、ヨーロッパで開かれているような市民手づくりの音楽祭を定期的で開催できないかとの提案を受け、2007年から同氏を音楽監督に迎え、同氏と親交のあるヨーロッパを中心に活躍中の演奏家を招いて国際音楽祭を開催している。

2012年から姫路国際音楽祭と共同開催。

● 名称

ル・ポン国際音楽祭 2022 赤穂・姫路

【英文表記】 Le Pont International Music Festival 2022 Ako & Himeji

Le Pont(ル・ポン)とは、フランス語で「架け橋」を意味する。この音楽祭が音楽と平和、現在と未来、赤穂・姫路と近隣自治体、東日本や熊本など、被災地から世界にまで広がる「架け橋」となるようにとの願いを込めて。

● 期間

「ル・ポン国際音楽祭 2022 赤穂・姫路」は、2022年(令和4年)10月2日(日)から10月9日(日)までの8日間とし、赤穂市では、10月2日(日)～10月3日(月)の2日間、赤穂化成ハーモニーホールを会場として2公演を行う。

● 主催等

音楽監督 榎本大進

主 催 赤穂国際音楽祭実行委員会、姫路国際音楽祭実行委員会

共 催 赤穂市、赤穂市教育委員会、公益財団法人赤穂市文化とみどり財団
姫路市、姫路市教育委員会、公益財団法人姫路市文化国際交流財団

後 援 兵庫県他

助 成 独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人中内力コンベンション振興財団

協 力 株式会社ジャパン・アーツ、スタインウェイ・ジャパン株式会社（予定）
文化庁 地域文化創生本部（予定）

● 基本方針

- (1) 榎本大進氏を音楽監督とし、同氏と親交のある世界で活躍中のアーティスト（以下「招待演奏家」という）による室内楽の楽曲（ソロ又は数人程度のアンサンブルによって演奏される曲）の演奏を中心としたプログラムとする。
- (2) 姫路国際音楽祭との共同開催とし、低料金で開催する。
- (3) 音楽祭の運営には、多くの市民の参加を得るとともに、演奏家と聴衆、市民との様々な交流の機会を創出する。

● 今年のテーマ

榎本大進音楽監督より

As this will be the first time in 3 years to do the festival in Ako and Himeji, it is a program remembering the last 15 years of the festival. So a mixture of many different genres.

赤穂市と姫路市で3年ぶりとなるル・ポン国際音楽祭なので、これまでの15年間を振り返り様々なジャンルのプログラムで音楽祭を開催する。

● 演奏会の日程

【赤穂国際音楽祭】

■10月2日（日）

- ・プリコンサート（赤穂化成ハーモニーホール 小ホール 開演 14時00分）
- ・招待演奏家によるコンサート（赤穂化成ハーモニーホール 大ホール 開演 17時00分）

■10月3日（月）

- ・招待演奏家によるコンサート（赤穂化成ハーモニーホール 大ホール 開演 18時30分）

【姫路国際音楽祭】

■10月5日（水）

・招待演奏家によるコンサート（姫路城二の丸特設会場 開演 19時00分）

■10月6日（木）

・招待演奏家によるコンサート（姫路城二の丸特設会場 開演 19時00分）

■10月8日（土）

・招待演奏家によるコンサート（書写山圓教寺三の堂特設会場 開演 15時00分）

■10月9日（日）

・招待演奏家によるコンサート（アクリエひめじ 大ホール 開演 18時00分）

● 出演者

檜本大進氏のほか、音楽監督として同氏が推薦する演奏家

15名参加予定（うち初参加1名）

ヴァイオリン	檜本 大進	日本
	ナタリア・ロメイコ	ロシア
	ボリス・プロフツィン	ロシア
ヴィオラ	アミハイ・グロス	イスラエル
	ギャレス・ルベ	南アフリカ
チェロ	クラウディオ・ボルケス	ドイツ
	ティモシー・パーク	アメリカ
コントラバス	未定	未定
フルート	エマニュエル・パユ	スイス
オーボエ	フランソワ・ルルー ◎初参加	フランス
クラリネット	ポール・メイエ	フランス
バスーン（バソン）	ジルベール・オダン	フランス
トランペット・ フリューゲルホルン	セルゲイ・ナカリャコフ	ロシア
ピアノ	エリック・ル・サージュ	フランス
	アレッシオ・バックス	イタリア

招待演奏家等に関する海外から日本への往復旅費、国内移動旅費並びに赤穂滞在中の宿泊費及び滞在雑費は主催者（両実行委員会）が負担とするが、出演料については、クラシック音楽を低料金で気軽に楽しめる環境づくりという趣旨に賛同いただき、ボランティア出演となっている。

- プログラム（※やむを得ない事情により、出演者・曲目が変更になる場合があります。）

◆音楽祭第1日目(10月2日/日) (赤穂国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (赤穂化成ハーモニーホール 大ホール 開演 17 時 00 分)

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト	フルート四重奏曲第3番 K. Anh. 171/285b	パユ(Fl)、榎本(Vn)、ルベ(Va)、パーク(Vc)
ジョアッキーノ・ロッシーニ	弦楽ソナタ第2番 イ長調	ブロフツィン(Vn)、ロメイコ(Vn)、ボルケス(Vc)、 未定(Cb)
カール・マリア・フォン・ウェーバー	クラリネット五重奏曲 Op.34	ロメイコ(Vn)、ブロフツィン(Vn)、ルベ(Va)、 パーク(Vc)、メイエ(Cl)
— 休憩 —		
ガエターノ・ドニゼッティ	フルート、バスーン、ピアノのための三重奏曲 A507	パユ(Fl)、オダン(Bn)、ボックス(Pf)
セザール・フランク	ピアノ五重奏曲 ヘ短調	榎本(Vn)、ロメイコ(Vn)、ルベ(Va)、 ボルケス(Vc)、ル・サーージュ(Pf)

◆音楽祭第2日目(10月3日/月) (赤穂国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (赤穂化成ハーモニーホール 大ホール 開演 18 時 30 分)

テオドル・デュボア	九重奏曲	榎本(Vn)、ロメイコ(Vn)、ルベ(Va)、ボルケス (Vc)、未定(Cb)、パユ(Fl)、ルルー(OB)、 メイエ(Cl)、オダン(Bn)
フェリックス・メンデルスゾーン	ピアノ三重奏曲第1番 Op.49	ブロフツィン(Vn)、パーク(Vc)、ボックス(Pf)
— 休憩 —		
ヨハン・ネポムク・フンメル	フルート、チェロ、ピアノのための三重奏曲 Op.78	パユ(Fl)、ボルケス(Vc)、ル・サーージュ(Pf)
カミーユ・サン＝サーンス	デンマークとロシアの旋律 による奇想曲 Op.79	パユ(Fl)、ルルー(OB)、メイエ(Cl)、ル・サーージュ (Pf)
ヨハン・シュトラウス二世 (シェーンベルク編)	南国のパラ Op 388	ロメイコ(Vn)、榎本(Vn)、ルベ(Va)、パーク(Vc)、 未定(Cb)、ボックス(Pf)、ル・サーージュ(harm)
ヨハン・シュトラウス二世 (シェーンベルク編)	入り江のワルツ Op. 411	ロメイコ(Vn)、榎本(Vn)、ルベ(Va)、パーク(Vc)、 未定(Cb)、ボックス(Pf)、ル・サーージュ(harm)
ヨハン・シュトラウス二世 (シェーンベルク編)	皇帝円舞曲 Op. 437	ロメイコ(Vn)、榎本(Vn)、ルベ(Va)、パーク(Vc)、 未定(Cb)、ボックス(Pf)、パユ(Fl)、メイエ(Cl)

◇音楽祭第3日目(10月5日/水) (姫路国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (姫路城二の丸特設会場 開演 19 時 00 分) 雨天時:アクリエひめじ 中ホール

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト	オーボエ四重奏曲 K. 370	ルルー(Ob)、榎本(Vn)、グロス(Va)、パーク(Vc)
ボフスラフ・マルティヌー	セレナーデ第3番 H218	ルルー(Ob)、メイエ(Cl)、ロメイコ(Vn)、ブロフツイン(Vn)、榎本(Vn)、ルベ(Va)、パーク(Vc)
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン	ピアノ三重奏曲 WoO39	ル・サーージュ(Pf)、ブロフツイン(Vn)、ボルケス(Vc)
セルゲイ・プロコフィエフ	五重奏曲 Op. 39	ブロフツイン(Vn)、グロス(Va)、未定(Cb)、ルルー(Ob)、メイエ(Cl)
	—— 休憩 ——	
ダリウス・ミヨー	管楽三重奏のための田園曲 Op.147	ルルー(Ob)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)
ジャック・イベール	三重奏のための5つの小品	ルルー(Ob)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)
アントン・ドヴォルザーク	ピアノ五重奏曲第2番 Op.81	ロメイコ(Vn)、榎本(Vn)、ルベ(Va)、ボルケス(Vc)、ボックス(Pf)

◇音楽祭第4日目(10月6日/木) (姫路国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (姫路城二の丸特設会場 開演 19 時 00 分) 雨天時:アクリエひめじ 中ホール

フランツ・クロンマー	四重奏曲 Op.46	オダン(Bn)、ルベ(Va)、グロス(Va)、パーク(Vc)
セザール・フランク	ピアノ三重奏曲 Op.1	榎本(Vn)、ボルケス(Vc)、ル・サーージュ(Pf)
	—— 休憩 ——	
ハインリッヒ・モルベ	ドリュアデスの祝宴 Op. 68	オダン(Bn)、ナカリヤコフ(F.Hr)、ボックス(Pf)
イゴール・ストラヴィンスキー	ヴァイオリン、クラリネット、ピアノのための兵士の物語	ロメイコ(Vn)、メイエ(Cl)、ル・サーージュ(Pf)
ヨハン・ネポムク・フンメル	ピアノ五重奏曲(ピアノ七重奏曲の編曲版) Op.74	ブロフツイン(Vn)、グロス(Va)、パーク(Vc)、未定(Cb)、ボックス(Pf)

◇音楽祭第5日目(10月8日/土) (姫路国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (書写山園教寺三の堂特設会場 開演 15 時 00 分) 雨天時:アクリエひめじ 中ホール

ウルフガング・アマデウス・モーツァルト	弦楽四重奏曲第 2 番 K406	ロメイコ(Vn)、プロフツイン(Vn)、グロス(Va)、ルベ(Va)、ボルケス(Vc)
アレクサンダー・グラズーノフ	東洋の夢	メイエ(Cl)、プロフツイン(Vn)、榎本(Vn)、ルベ(Va)、ボルケス(Vc)
	—— 休憩 ——	
アントン・ドヴォルザーク	弦楽のための 2 つのワルツ Op. 54, B. 105	ロメイコ(Vn)、榎本(Vn)、グロス(Va)、パーク(Vc)、未定(Cb)
マックス・ブルッフ	七重奏曲 変ホ長調(遺作)	榎本(Vn)、プロフツイン(Vn)、パーク(Vc)、未定(Cb)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)、ナカリヤコフ(F.Hr)

◇音楽祭第6日目(10月9日/日) (姫路国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (アクリエひめじ 大ホール 開演時間 18 時 00 分)

アルフレード・カゼッラ	ピアノ、チェロ、クラリネット、トランペットのためのシンフォニア Op.53	メイエ(Cl)、ボルケス(Vc)、ナカリヤコフ(Tp)、ル・サーージュ(Pf)
パウル・ヒンデミット	ヴァイオリン、コントラバス、クラリネット、トランペット、ピアノのための 3 つの小品	ロメイコ(Vn)、未定(Cb)、メイエ(Cl)、ナカリヤコフ(Tp)、ボックス(Pf)
フェルッチョ・ブゾーニ	モーツァルトによる協奏的小二重奏曲	ボックス(Pf)、ル・サーージュ(Pf)
フランソワ・プーランク	シテール島への船出~2 台のピアノによるヴァルス=ミューゼット	ル・サーージュ(Pf)、ボックス(Pf)
	—— 休憩 ——	
フランツ・ベルワルド	クラリネット、バスーン、ホルン、ピアノのための四重奏曲 Op.1	メイエ(Cl)、オダン(Bn)、ナカリヤコフ(F.Hr)、ル・サーージュ(Pf)
ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー	フィレンツェの思い出 Op.70	プロフツイン(Vn)、榎本(Vn)、グロス(Va)、ルベ(Va)、ボルケス(Vc)、パーク(Vc)

● 演奏会場

(1) 赤穂市文化会館 赤穂化成ハーモニーホール

客席数 1,120 席



赤穂化成ハーモニーホール

● 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

- (1) 来場時にはマスクを着用し、体調に不安のある方は、来場を見合わせていただく。
- (2) 入場時の検温で 37.5 度以上の方は、入場をお断りする。
- (3) その他、兵庫県対処方針及びクラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン等に基づき、感染防止対策を講じる。

※なお、上記の感染防止対策は状況に応じ変更する場合があります。

● チケット販売【姫路・赤穂公演】

◆赤穂化成ハーモニーホール大ホール 指定席（金額 税込1,000円）

◇姫路城二の丸特設会場 指定席（金額 税込1,000円）

◇書写山圓教寺三の堂特設会場 指定席（金額 税込1,000円）

◇アクリエひめじ大ホール 指定席（金額 税込1,000円）

※姫路国際音楽祭

●親子席枠として、一定数の席を確保する。

○親子ペアチケット	(1枚1組)	指定席（金額 税込1,000円）	【60組 120席】
	(内訳)	赤穂化成ハーモニーホール	【24組 48席】
		姫路城二の丸特設会場	【24組 48席】
		アクリエひめじ	【12組 24席】

一般チケット

(1) 購入方法

- ① プレイガイド（ローソン、ぴあ）、窓口販売（赤穂会場のみ赤穂化成ハーモニーホール）で直接申し込む。※姫路会場（姫路市文化国際交流財団）は窓口販売を行わない。
- ② 8月10日（水）午前9時より一斉発売する。（以降、午前9時から午後5時15分）
- ③ 赤穂会場のチケットを購入する場合は、1回の受付で一人1公演につき3枚まで（1回の受付で一人1公演のみ3枚を限度とする。購入窓口が公演日毎で分かれているた

め、両日の購入をご希望の場合は、再度お並びいただく)。なお、姫路会場のチケットは窓口販売しない。

- ④ 姫路会場のチケットを購入する場合は、一人1公演につき2枚まで(1回の受付で一人1公演のみ2枚を限度とする)。※プレイガイドのみ販売。
- ⑤ 電話予約は、赤穂会場のみ残席がある場合に限り受け付ける。
8月17日(水)午前10時から午後5時15分(以降、午前9時から午後5時15分)
火曜休館日を除く。※姫路会場の電話予約は行わない。
- ⑥ 未就学児の入場は不可。

親子ペアチケット

(1) 購入方法

- ① 赤穂化成ハーモニーホール2階席(10月2日(日)、10月3日(月)各日12組24席(計24組48席))、姫路城二の丸特設会場(10/5,6)及びアクリエひめじ3階席(10/9)各日12組24席(計36組72席)で実施する。
- ② 往復はがきによる申込みとし、はがき1枚につき1組の親子ペアの申込みとする。
- ③ 申し込みができる子どもは小学生又は中学生とし、必ず保護者(高校生以上。父母でなくとも可)と2人1組での申込みとする。(保護者と子どものペア以外の申込みはできない。)
- ④ 保護者及び子どもの名前と年齢、学年を明記する。
- ⑤ 複数枚のはがき応募がある場合は、無効とする。
- ⑥ 入場時にペアの確認をする。
- ⑦ 申込みの締切日は7月15日(金)とする。(消印有効)
- ⑧ 申込み多数の場合は抽選とし、抽選結果は返信はがきで通知する。

(2) 往復はがき記入方法

① 赤穂化成ハーモニーホール

往信 [表] 〒678-0232 赤穂市中広 864

赤穂市文化会館「赤穂国際音楽祭 親子ペアチケット係」宛

[裏] 郵便番号、住所、氏名(2人の氏名と年齢、学年)、電話番号、公演日

返信 [表] 申込者の郵便番号、住所、氏名 / [裏] 白紙

② 姫路城二の丸特設会場、アクリエひめじ

往信 [表] 〒670-8501 姫路市安田四丁目1番地

姫路市文化国際課「姫路国際音楽祭 親子ペアチケット係」宛

[裏] 郵便番号、住所、氏名(2人の氏名と年齢、学年)、電話番号、公演日

返信 [表] 申込者の郵便番号、住所、氏名 / [裏] 白紙

以下、姫路国際音楽祭のチケット販売

姫路市民先行販売券

(実施方法)

枚数 600 枚（姫路城 100 枚×2 日、書写山 100 枚、アクリエ 300 枚）

姫路市内に住所を有する人が対象

申し込みはインターネットまたはハガキ

応募期間を設け、応募多数の場合は抽選

先行販売券は、郵送のみ（申込み住所以外には送らない。不達の場合は当選無効とする。）

先行販売券は、姫路市文化国際交流財団のチケット用紙に印刷する。（コピー防止のため）

チケットは、有効期間内にキャスパホールかパルナソスホールで販売する。

● 関連行事

(1) プリコンサート

ハーモニーヴァイオリンアンサンブル教室（※）

演奏者が赤穂市及び近隣市町以遠から参加する場合は、往復交通費を主催者が負担するが、報酬に関しては海外アーティストと同様ボランティア出演とする。

※一人でも多くの赤穂の子どもたちに楽器に親んでもらいたいという強い思いから、榎本大進氏が平成 13 年に赤穂市に寄贈したヴァイオリン 20 挺を使用して、平成 14 年から始まった子どもたちのためのヴァイオリン教室。

(2) ロビーコンサート

【日時】 10月2日（日） 本公演開場前
 【場所】 赤穂市文化会館ロビー
 【出演】 ハーモニーヴァイオリンアンサンブル教室生

(3) ほのぼのコンサート

【日時】 ① 10月2日（日） 11時開演
 （場所） 赤穂市民病院アメニティホール
 （出演）
 ② 10月3日（月） 11時開演
 （場所） 赤穂中央病院シュヴァイツァーホール
 （出演）

(4) 展示等

- 赤穂緞通による憩いの場を提供します。
- 黒猫「The47 Black Cats」がお迎えします。
- あこう絵マップコンクール作品展（子どもから見た赤穂を表現しています。）
- 播州赤穂義提団（赤穂市職員有志）によるライトアップ
- 木目込人形オーケストラバージョンの展示
- アーティストの似顔絵展
- 藍染め横断幕
- 文化とみどり財団企画展

● 災害復興支援事業

(1) 募金活動

● 広報及びマーケティング

(1) メディアリリース及びパブリシティ

新聞社（報道部門及び文化部門）、テレビ局、ラジオ局、通信社、音楽専門誌編集部等を対象に、事業基本計画決定時、演奏会プログラム決定時など適切なタイミングでメディアリリース（報道資料）を送付する。

また、榎本大進氏のインタビュー記事掲載、音楽祭期間中の記者レポートなどを働きかける。

(2) ポスター及びチラシ

音楽祭の公式ポスター及び公式チラシを作成し、赤穂市及び姫路市各所、市外コンサートホールなどにおいて掲示又は配布を行う。

(3) ホームページ及び市広報（SNSを含む）

赤穂・姫路国際音楽祭実行委員会の共通ホームページにより、音楽祭関連情報を随時掲載するとともに、広報「あこう」やLINE、Facebookにも音楽祭関連情報を定期的に掲載する。

(4) バナー等

音楽祭開催を告げる大型の横断幕やバナー（垂れ幕）等を播州赤穂駅前広場、赤穂小学校通路、赤穂城までの導線等に掲げ、音楽祭開催の機運を盛り上げる。

(5) その他

各種観光情報媒体に音楽祭関連情報の掲載を働きかける。

● ボランティア募集

音楽祭が広く市民に浸透するように、音楽祭企画・運営（受付、チケット確認、案内、警備、演奏者の接待、通訳等）に市民ボランティアの参画を広く募る。

(1) サービスボランティア：コンサート会場での来場者対応等

(2) 通訳ボランティア：出演者の通訳補助（英語等）

● 協賛金・寄付金の募集【赤穂・姫路公演】

協 賛 の 特 典

◆協賛金は、ル・ポン2022事業全般にわたる経費に充当する。

○ポスター、チラシ等への企業名の掲載

令和4年6月下旬（予定）までに申出をいただいた場合、希望によりポスター、チラシ、ホームページ及びプログラムに企業名を掲載する。

○演奏会、交流パーティーへの招待

区 分	赤穂市		姫路市				姫路市
	赤穂化成 ハーモニーホール		姫路城二の丸		書写山 圓教寺	アクリエひめじ	交流パーティー
	(10/2)	(10/3)	(10/5)	(10/6)	(10/8)	(10/9)	(10/8)
協 賛	4名【注1】						2名【注2】
大口協賛 (6口以上)	4名【注1】						6名【注2】

* 1口5万円をお願いします。

【注1】 赤穂市及び姫路市での演奏会のうち、希望する2公演に2名ずつ（計4名）招待する。

【注2】 10月8日（土）の交流パーティーに希望により2名（大口協賛は6名）招待する。

（新型コロナウイルス感染症の影響により中止する場合があります。）

寄 付 の 特 典

◆寄付金は、赤穂国際音楽祭実行委員会または姫路国際音楽祭実行委員会への寄付とし、各実行委員会が単独で開催する事業に充当する。

○プログラムへの芳名の掲載

希望によりプログラムに芳名を掲載する。（7月初旬締め切り）

○演奏会、交流パーティーへの招待

区 分	赤穂市		姫路市				姫路市
	赤穂化成 ハーモニーホール		姫路城二の丸		書写山 圓教寺	アクリエひめじ	交流パーティー
	(10/2)	(10/3)	(10/5)	(10/6)	(10/8)	(10/9)	(10/8)
寄付(姫路)	2名【注1】		2名【注1】				
寄付(赤穂)							
大口寄付 (5口以上)	4名【注3】						2名【注4】

* 1口1万円をお願いします。

【注1】 赤穂国際音楽祭への寄付者は赤穂会場の希望する公演に、姫路国際音楽祭への寄付者は姫路会場の希望する公演に、それぞれ2名招待する。

【注2】 赤穂国際音楽祭への寄付者は、ハーモニーホールについて先着150人、最高300枚（1人2枚まで）の優先販売を行う。（一般と同種の席を優先的に確保し、先着販売する。）

【注3】 大口寄付者は、赤穂市及び姫路市での演奏会のうち希望する2公演に2名ずつ（計4名）招待する。

【注4】 大口寄付者は、10月8日（土）の交流パーティーに2名招待する。

（新型コロナウイルス感染症の影響により中止する場合があります。）

～ アーティスト紹介 ～

<p>樫本 大進 <ヴァイオリン></p>	<p>1979年ロンドン生まれ。1990年、第4回バッハ・ジュニア音楽コンクールでの第1位を皮切りに、1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールでの1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。</p> <p>ドイツを拠点にソリストとして世界の舞台で演奏する傍ら、2010年よりベルリン・フィルの第1コンサートマスターを務める。</p> <p>使用楽器は、株式会社飛鳥（志村昌代表取締役）から貸与された1774年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。</p> <p>3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学び、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳の時、名教授ザハール・ブロンに招かれリュベックに留学し、20歳よりフライブルク音楽院でライナー・クスマウルに師事。修士課程においてグスタフ・シェック賞を受賞のうえ修了。</p> <p>これまで、マゼール、小澤征爾、ヤンソンスなど著名指揮者のもと、国内外のオーケストラと共演を重ねているほか、室内楽の分野でも、クレーメル、バシュメット、マイスキー、堤剛、パユなど世界有数のソリストと共演。2007年、兵庫県で室内楽の音楽祭「ル・ポン国際音楽祭～赤穂・姫路～」を自ら音楽監督として創設し、赤穂市・姫路市にて毎年開催している。</p> <p>2010年、ベルリン・フィル第1コンサートマスターに就任。同団とは、本拠地ベルリンおよびツアーでの演奏会で、音楽監督ラトルやネルソンス指揮のもとソリストとしても共演している。</p> <p>2014年、ピアノのリフシッツとのベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全曲収録CDがワーナー・クラシックスより世界リリースされ、高い評価を得ている。</p> <p>1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞、2017年姫路市芸術文化大賞、2021年赤穂市政特別功労者顕彰を受賞。</p>
<p>ナタリア・ロメイコ Natalia Lomeiko <ヴァイオリン> ル・ポン参加：2007～2010、 2012、2013、2015～2018年 【11回目の参加】</p>	<p>1979年ノボシビルスク（ロシア）生まれ。2000年パガニーニ・国際ヴァイオリン・コンクール第1位、同時に金賞受賞、2003年マイケル・ヒル国際ヴァイオリン・コンクール第1位。7歳の時にノボシビルスク響でデビューして以来、メニューイン卿指揮のロイヤル・フィルやフィルハーモニア管を始めとする世界の一流オーケストラのソリストとして活躍。ウィグモア・ホール、バッキンガム宮殿などで演奏会を行い、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシュメット、シュロモ・ミンツ、樫本大進等と共演。2011年ロンドンの王立音楽大学教授に就任。近年は、2009年夫であるユーリ・ジスリンとレコーディングを行ったほか世界中で室内楽公演に参加している。</p>
<p>ボリス・ブロフツィン Boris Brovtsyn <ヴァイオリン></p>	<p>1977年生まれ。6歳のとき、ポリショイ劇場で初演奏を行う。1993年9月には、ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世に御前演奏を披露。1994年にモスクワ音楽院に入学し、1998年ユーディ・メニューイン国際コンク</p>

<p>ル・ポン参加：2013～2016、2018年 【6回目の参加】</p>	<p>ールで第3位などの榮譽を得たのち、1999年に首席で当校を卒業した。2001年エリザベート王妃国際音楽コンクールではファイナリストに選ばれる。2002年にはティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール(スイス)で優勝。ネヴィル・マリナー、ユーリ・バシメット、ゲルト・アルブレヒト、ネーメ・ヤルヴィ、アレクサンドル・ラザレフらとストラスブルール・フィル、モンテカルロ・フィル、ベルリン放送響、スイスロマン管弦楽団、ワルシャワ・フィル、サンパウロ響などと演奏、ヴェルビエ音楽祭、ルガーノ音楽祭、エディンバラ国際フェスティバル、エルサレム室内楽フェスティバルなど多数の音楽祭に招かれている。室内楽では、ジャーニーヌ・ヤンセン、マキシム・リザノフ、アミハイ・グロスらと活発に活動している。</p>
<p>アミハイ・グロス Amihai Grosz 〈ヴィオラ〉 ル・ポン参加：2010、2012～2013、2015、2017、2021年 【7回目の参加】</p>	<p>1979年イスラエル生まれ。エルサレム弦楽四重奏団の創設メンバー。2010年よりベルリン・フィルの首席ヴィオラ奏者として活躍。ダニエル・バレンボイム率いるウェスト＝イースタン・ディヴァン管やエルサレム響でも演奏する傍ら、ソリストとしても活躍。イエフィム・ブロンフマン、エマニュエル・パユ、内田光子、オレグ・マエイセンバルク、ジャーニーヌ・ヤンセン等と共演。またヴェルビエ音楽祭、BBCプロムスなど、世界中のホールや音楽祭で活躍している。使用楽器は1570年製の「ガスパロ・ダ・サロ」。持主より終身貸与されている。</p>
<p>ギャレス・ルベ Gareth Lubbe 〈ヴィオラ〉 ル・ポン参加：2008、2009、2012、2014、2018、2019、2021年 【8回目の参加】</p>	<p>1976年南アフリカ・ヨハネスブルグ生まれ。4歳のときからピアノとヴァイオリンを学び、9歳でヨハネスブルグのオーケストラでヴァイオリン奏者としてデビュー。その後も国内や地域のコンクールで数々の賞を獲得。</p> <p>ドイツに留学後、リューベックでバルバラ・ウェストファールに師事し、ヴィオラで修士号を取得。ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、アジアで、ソロ活動を行うほかマーラー室内管弦楽団やライブチヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の首席ヴィオラ奏者として、クラウディオ・アバド、リッカルド・シャイーやダニエル・ハーディング等の指揮のもとで演奏した。また、主に現代音楽の分野でヨーロッパにおいて著名なアンサンブル・ゲルバークランクのメンバーとして活躍し、BBCやヨーロッパの主要ラジオ局のためにレコーディングを行っている。</p>
<p>●クラウディオ・ボルケス Claudio Bohorquez 〈チェロ〉 ル・ポン参加：2007～2010、2012、2014～2019、2021年 【13回目の参加】</p>	<p>ペルーとウルグアイ出身の両親を持ちドイツに生まれる。チェロをボリス・ペルガメンシコフに師事。若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールやロストロポーヴィチ・チェロ・コンクールなどで入賞を重ね、1995年ジュネーブ国際音楽コンクール優勝、2000年第1回パブロ・カザルス国際コンクールで第1位および最も優れた室内楽演奏に贈られる特別賞を受賞。</p> <p>その後、ソリストの傍ら、2011年から2016年までシュトゥットガルト音楽大学の教授として後進の指導にあたり、2016年には、2003年より客員教授を務めているベルリンのハンス・アイスラー音楽大学の教授に就任。これまで世界中の名門オーケストラと共演、また、世界各地の音楽祭にも招かれており、高い評価を得ている。2017年には、ヴィネンデン音楽祭の芸術監督に就任した。</p> <p>使用楽器は、バーデン＝ヴュルテンブルグ州立銀行から贈られたチェロ「G. B. ロゲーリ」。</p>
<p>ティモシー・パーク Timothy Park</p>	<p>ニューヨーク生まれ。ジュリアード音楽院、イエール大学、リューベック音楽大学、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンで学ぶ。また、ポリ</p>

<p><チェロ> ル・ポン参加：2017、2018年 【3回目の参加】</p>	<p>ス・ペルガメンシコフなどのマスタークラスにも参加。様々な国際、国内コンクールで優勝し、ニューヨーク室内管弦楽団、リトアニア室内管弦楽団など世界的に有名なオーケストラとも共演。ベルリンを拠点とするエルレインブーシ・ストリング・カルテットのメンバーであり、アレッシオ・バックス、エマニュエル・パユ、ブルーノ・シュナイダーなどとも共演している。また、韓国、日本、ベネズエラ、米国において、様々な教育及び慈善活動にも注力している。使用楽器は、1740年ジェナーロ・ガリアーノ。</p>
<p>●エマニュエル・パユ Emmanuel Pahud <フルート> ル・ポン参加：2010、2016、2019、2021年 【5回目の参加】</p>	<p>6歳でフルートを始め、パリ国立高等音楽院でミシェル・デボスト、アラン・マリオン、クリスチャン・ラルデ、ピエール＝イヴ・アルトーに師事、同音楽院卒業後はバーゼルのオーレル・ニコレの下で研鑽を積んだ。1989年の神戸国際コンクール第1位で日本のフルート・ファンの注目を一気に集め、92年には最難関のジュネーヴ国際コンクール第1位を獲得。</p> <p>1992年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のオーディションに合格し、翌年には首席奏者に就任。2000年6月ベルリン・フィルを退団、同年9月から2001年6月までジュネーヴ音楽院フルート科の教授として後進の指導にあたる。</p> <p>2002年4月ベルリン・フィルに復帰、同オーケストラ首席奏者およびソロ・フルーティストとしての演奏活動を再開。</p> <p>来日も多く、リサイタルの他、N響、東響、読響を含むオーケストラとの共演、レ・ヴァン・フランセ（木管アンサンブル）での公演、またマスタークラスも行っている。2006年放送の大河ドラマの紀行音楽にも参加した。録音ではワーナー・クラシックスと専属契約を結び、20作を超えるCDをリリース、多くの賞を受賞している。</p> <p>フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」受章。英国王立音楽院名誉会員。</p>
<p>●フランソワ・ルルー Francois Leleux <オーボエ> 【◎初参加】</p>	<p>——フランスのオーボエ奏者であるフランソワ・ルルーのような桁外れのカリスマ性と音楽性を持つ指揮者及びソリストという存在に、その空間が満たされると、効果も倍増する—— (The Arts Desk 英国の芸術ジャーナリズム・ウェブサイト)</p> <p>指揮者でありオーボエ奏者のフランソワ・ルルーは、溢れんばかりの熱意と活力を持つことで知られる。現在、カメラータ・ザルツブルクのアーティスティック・パートナーを務めている。これまでには、パリ室内管弦楽団のアーティスト・イン・アソシエーションを務めたほか、hr交響楽団（旧フランクフルト放送響）、ストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団、ベルン交響楽団、ノルウェー室内管弦楽団、そしてテネリフェ交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスとして活躍している。</p> <p>2021/22シーズンには、指揮者としてスイス・イタリア語放送管弦楽団、BBCスコットランド交響楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、カメラータ・ザルツブルク、ヨーロッパ室内管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、スコットランド室内管弦楽団、オランダ室内管弦楽団、そしてパリ室内管弦楽団を再訪する。これまでに、オスロ・フィルハーモニー、hr及びWDR交響楽団、リール国立管弦楽団、スウェーデン室内管弦楽団や、シドニー、グルベンキアン、スウェーデン放送交響楽団、トーンキョストラ管弦楽団などを指揮している。</p> <p>オーボエ奏者としては、ニューヨーク・フィルハーモニック、ベルリン・ドイツ交響楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽</p>

	<p>団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、ブダペスト祝祭管弦楽団、そしてスウェーデン放送交響楽団やNHK交響楽団などと、ソリストとして共演している。室内楽にも熱心に取り組み、六重奏団のレ・ヴァン・フランセや、リサ・バティアシュヴィリ、エリック・ル・サーージュにエマニュエル・シュトロッセといったリサイタルのパートナーたちと、世界各地で定期的に演奏している。</p> <p>また、オーボエのレパートリーの拡大にも意欲的に取り組み、ニコラ・バクリ、ミカエル・ジャレル、ギヤ・カンチェリ、ティエリー・ペコウ、ジル・シルヴェストリーニにエリック・タンギーなどの作曲家に多数の新作を委嘱している。最近のシーズンには、シルヴェストリーニがルルーのために特別に編曲したドビュッシーの「サクソフォンのための狂詩曲」のコーラングレ編曲版の世界初演(2017/18)、ジャレルのオーボエ協奏曲「アクアタント」(2016/17)、そしてティエリー・エスケシュの「ヴァイオリンとオーボエのための二重協奏曲」の初演を、妻であるリサ・バティアシュヴィリと、NDRエルプ・フィルハーモニー管弦楽団及びニューヨーク・フィルハーモニックと行った。</p> <p>最新録音は、ワーナー・クラシックスからリリースされた「Bienvenue en France (フランスへようこそ～フランス・オーボエ作品集)」で、ピアニストのエマニュエル・シュトロッセとの共演により、サン＝サーンス、デュティユー、ドビュッシーなど20世紀のフランス作品の他、現代作曲家のティエリー・ペコウの作品が収録されている。指揮者としては、ルルーとスコットランド室内管弦楽団によるビゼーとグノーの作品を収めたアルバムが、Linn Recordsより2019年に発売されている。2016年には、ミュンヘン室内管弦楽団と録音したフンメルとハイドンの作品集で賞を受賞。他にも、ヨーロッパ室内管弦楽団とのJ.S.バッハ作品、カメラータ・ザルツブルクとのモーツァルト、そしてダニエル・ハーディング指揮によるスウェーデン放送交響楽団とのシュトラウスのオーボエ協奏曲などが発売されている。</p> <p>ミュンヘン音楽大学の教授を務めている。</p>
<p>●ポール・メイエ Paul Meyer ＜クラリネット＞ ル・ポン参加：2007、2010、2012 ～2013、2015～2018年 【9回目の参加】</p>	<p>名実共に世界のトップに立つクラリネット奏者。1965年アルザス生まれ。13歳でソリストとしてデビュー。パリ高等音楽院とバーゼル音楽院で学ぶ。フランス国内外のコンクールで優勝後、84年NYデビュー。ベニー・グッドマンに出会い親交を結ぶ。以来世界有数のソロ・クラリネット奏者として活躍。</p> <p>協奏曲のレパートリーは約100曲もの数にのぼり、完璧な技術とずば抜けた音楽性、品のある豊かな音色を併せ持つ天才クラリネット奏者として、ベリオ、ペンデレツキを始めとする数多くの作曲家達から曲を捧げられ、初演も多い。</p> <p>室内楽でも活発な活動を行っており、クレーメル、ヨーヨー・マ、デセイ、ピリス、ロストロポーヴィチ、スターン、バシュメット、パユ等世界一流のソリスト達、及び、エマーソン、ハーゲン、東京クワルテット等の弦楽四重奏団とも共演。パユやオーボエのフランソワ・ルルー等、現代最高のフランスの木管奏者達とアンサンブル、「レ・ヴァン・フランセ」を結成し、絶賛されている。</p> <p>デンオン、CBS、エラート、BMGファンハウス他多数のレーベルでCDが発売され、その中にはギドン・クレーメルとのピアソラ(ECM/ノンサッチ)、プーランクの室内楽(BMG)、チョン・ミョ</p>

	<p>ンファン、ギル・シャハム、ジャン・ワンとのメシアン「世の終わりのための四重奏曲」(ドイツ・グラモフォン)、ピアノのエリック・ル・サージュと録音したライネッケ、メンデルスゾーン、ヴェーバー(デンオン)及びブラームスのクラリネット・ソナタ(BMG)等がある。</p> <p>著名なクラリネット奏者として活躍する一方、指揮者としてのキャリアも急速に築きつつある。これまでに、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団を始めとするヨーロッパ各地の主要オーケストラ、台北交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等を指揮。ルイスダのモーツァルト及びハイドンの2枚のCDのほか、ミヨーの協奏曲集のCDでも指揮者を務めている。ソウル・フィルハーモニー交響楽団の准首席指揮者を経て、2010年～2012年12月東京佼成ウインドオーケストラの首席指揮者を務めた。使用楽器はビュッフェ・克蘭ボン。</p>
<p>●ジルベール・オダン Gilbert Audin ＜バスーン＞ ル・ポン参加：2010、2016、2018～2019年 【5回目の参加】</p>	<p>1956年フランス生まれ。フランス式バスーン(バゾン)の第一人者。1973年にパリ国立高等音楽院に入学、バズンをモーリス・アラールに、室内楽をクリスティアン・ラルデに学ぶ。同音楽院在学中、1975年バズンで、1976年室内楽で一等賞を受賞。1975年ミュンヘン国際ARD国際音楽コンクール第3位、1980年ジュネーヴ国際コンクール、1982年トゥーロン国際コンクールの両コンクールで第1位となる。</p> <p>現在、パリ・オペラ座管弦楽団の首席バズン奏者を務めるとともに、パリ国立高等音楽院の教授として後進の育成にもあたっている。</p> <p>オダンは、ポール・メイエがパユ、ル・サージュらと主宰するアンサンブル、レ・ヴァン・フランセの重要なメンバーで、フランスのエスプリが輝く彼らの完璧なアンサンブルは絶賛されている。</p>
<p>●セルゲイ・ナカリャコフ Sergei Nakariakov ＜トランペット＞ ＜フリューゲルホルン＞ ル・ポン参加：2018、2019年 【3回目の参加】</p>	<p>驚異的なヴィルトゥオーシティと豊かな音楽性で「トランペット界のパガニーニ」と絶賛され、世界有数のソロ・トランペット奏者として活躍する一方、クラシックの世界でフリューゲルホルンをソロ楽器として広く認知させた最初の演奏家。</p> <p>1977年生まれ。弱冠15歳でテルデック・インターナショナルと専属契約を結びCDデビュー。トランペットの楽曲にとどまらない広範なレパートリーで数々の編曲作品を録音。ハイドン、メンデルスゾーン、ホフマイスターによる弦(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)の協奏曲をトランペットおよびフリューゲルホルンで演奏した「超絶のトランペット協奏曲集」はフランスの雑誌「Repertoire」誌から最高評価を受け、CD「ノー・リミット」はドイツの放送局RTLの音楽賞に輝いている。</p> <p>使用楽器はフランスのコルトワ。</p>
<p>●エリック・ル・サージュ Eric Le Sage ＜ピアノ＞ ル・ポン参加：2008、2011、2015～2018、2021年 【8回目の参加】</p>	<p>南仏エクサン・プロヴァンス生まれ。パリ国立高等音楽院を17歳で卒業後、ロンドンでマリア・クルチオに師事。1985年ポルト国際コンクールおよび89年ロベルト・シューマン国際コンクール第1位などのコンクール受賞歴を持つ。</p> <p>ウィグモア・ホール、シャトレ座、アムステルダム・コンセルトヘボウ、フランクフルト・アルテ・オーパー、ケルン・フィルハーモニー、カーネギーホールを含む著名コンサートホールに出演するほか、フィラデルフィア管、トロント響、シュトゥットガ</p>

	<p>ルト放送響、ドレスデン・フィル、フランス放送フィル、トゥールーズ・キャピトル国立管、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管、ロッテルダム・フィル、読響、都響を含む数々のオーケストラと共演。</p> <p>優れた室内楽奏者としても知られ、1992年よりポール・メイエ（クラリネット）、エマニュエル・パユ（フルート）等と共にサロン・ド・プロヴァンス国際室内楽音楽祭を主宰。</p> <p>プーランクの室内楽作品全集、シューマンのピアノ曲・室内楽作品全集（2010年ドイツ・レコード批評家賞受賞）、フォーレの室内楽作品全集を含む多数のCDをリリース。</p> <p>フライブルク音楽大学教授。</p>
<p>アレッシオ・ボックス Alessio Bax ＜ピアノ＞ ル・ポン参加：2018、2019年 【3回目の参加】</p>	<p>8歳でピアノを始め、翌年バーリ音楽院に入学。通常10年かかるコースをわずか5年で修了、首席で卒業した。16歳で全額奨学金を受けてアメリカ・ダラスの南メソジスト大学に入学。スペイン人の巨匠ホアキン・アチュカロに師事し、ピアノ演奏コースで音楽修士号を取得した。叙情的な演奏と洞察力に富んだ解釈で高く評価され、浜松国際ピアノコンクールとリーズ国際ピアノコンクールで優勝して以来、世界中の人々を魅了し続けている。</p> <p>これまでに、ロンドン・フィル、バーミンガム市響、ロイヤル・フィル等80以上のオーケストラに客演。サイモン・ラトル、マリン・オルソップなどと共演した。現在は、演奏活動の傍ら、南メソジスト大学で教鞭を執っている。</p>